



大人が絵本を 第48回 電子メディアを



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー BibliOキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

ありがとう、かこさとしさん

科学絵本のパイオニアで、絵本界の長老として各界からも一目置かれていた加古里子氏が、今年5月2日92歳で永眠されました。代表作『からすのパンやさん』は1973年に発行されてから今日まで、大人世代にも子どもたちにも長く長く愛され続けているお話です。時代を超えて、あらゆる世代の人々に愛着を持たれている温かい家族の物語は、初版発行から40年の年月を経た2013年に、成長したチョコくんら4羽の子どもたちそれぞれが主役となって、続きのお話4話が生まれたのです。『からすのパンやさん』で育ち、そして絵本を生業とさせていただいている私たちには、驚きよりも興奮が先立ちましたし、嬉しくて童心に返っている自分を発見したものです。

それだけではありません。亡くなられるまで筆を置くことのなかった現役の絵本作家は、亡くなる直前の2018年3月に、人気シリーズ「だるまちゃん」の新作3作を同時に発表し、世間を驚かせました。この3作品を目にしたときは、その旺盛な創作意欲に感服し、なお、喜びと感謝の気もちでいっぱいになりました。片目の視力を失いながらも精力的に描かれているだるまちゃんのタッチは、それまでと異なり、それがまた味わい深く、私たちファンは手元に置かずにはいられない衝動を抑えることができませんでした。

さて、手足の生えた愛らしいだるまちゃんは、郷土玩具がモチーフだをご存知でしょうか。それは主人公のだるまちゃんだけではありません。シリーズに登場するだるまちゃんのお友だちは、天狗に虎の子、天神様などみんな郷土玩具がモデルとなっているのです¹⁾。

だるまちゃんとうさぎちゃんとワクワク遊び

「絵本作家かこさとし」というと、『からすのパンやさん』や「だるまちゃん」を代表作とする創作絵本作家のイメージをもたれるのは、お母様方に多いと思います。子どもに関わる職業を専門としている方には、自然や身体の科学絵本作家の認識が強いのではないのでしょうか。偉大な絵本作家かこ氏が探究した世界はまだありますが、創作絵本、科学絵本と肩を並べる専門領域に伝承遊び考があります。かこ氏に先導者となってもらい、伝承遊び絵本の世界を探索しましょう。

だるまちゃんシリーズ3作目の『だるまちゃんとうさぎちゃん』は、作者の言う「いろいろ遊び」が主役です²⁾。私自身の未就学期は、家庭内にテレビも既製のおもちゃもない環境でしたので、「うさぎちゃん」に登場する手袋人形もウサギのナプキンと帽子も、絵本から飛び出したワクワクする遊びそのものでした。

『だるまちゃんとうさぎちゃん』
加古里子作
(福音館書店)



伝承遊びとは、「子どもの遊び集団の中で自然発生的に生まれ、代々共有されてきた遊びであり、子ども社会の縦横のつながりによって、また、大人から子供への経路を通して伝えられ、受け継がれてきた遊びの総称」³⁾で、それをお話の中で展開させている絵本を「伝承遊び絵本」といいます。物語の中で遊び方をも示している『だるまちゃんとうさぎちゃん』や『おかえりたまご』(広松由希子 作、しまだ・しほ 絵)に見られるような、お話の楽しみと合わせ

手にするときは！

すてよ。伝承遊びをしよう

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

て、身体遊びやものづくりの楽しみが広がるワクワク度の高い絵本群です。

時代が変えてしまった遊びのスタイル

子どもの遊びは1970年代くらいまで、子ども社会の縦横集団の中で虫取り、基地作りなどを教えてもらい、飛んだり蹴ったり、追っかけ逃げたりして、身近な自然のものを使って繰り広げられていました。あるいはおじいちゃんに竹馬や缶ぼっくりの作り方と遊びを教えてもらったり、おばあちゃんお手製のお手玉を使って見よう見まねで歌ってお手玉遊びをしたり、年長の子どもや大人から、教育とか文化の継承といった目的など関係なく、純粹に遊びを受け継いでいました。

しかし、間もなく幕が降りる平成の30年間で大きく変容してしまった生活様式によって、子どもの遊びまでも伝承される機会と伝承者が減ってしまい、その形態が変わってしまったことは如実です。DVDやデジタルゲーム、昨今ではインターネット上での動画配信サイトの登場で、子どもたちは屋外よりも室内で遊ぶ時間が長くなり、また、遊び場と道具の選択がまだできない小さな子どもたちの育児をデジタル機器が担う問題まで出現しています。そして、身体を使った遊びが減少したことにより、児童の体力・運動能力の低下や、コミュニケーション力の低下も大きく指摘されていることは周知のとおりです⁴⁾。

子どもたちは好奇心の塊であって、知識欲に満ち溢れています。デジタルゲームにとって代わるものごとを示せば、ゲームでは表さない喜びを訴えてくるものです。かこ氏いわく「いろいろな経験をして、挑戦する原動力になるのは好奇心や楽しむことなので、チャレンジ精神を削がないようにしながら、か

とって野放図にせず人間生活を送るために必要なことや大切なことを大人は示してあげるべきだ」とは、著書『絵本への道』によるものです⁵⁾。それが生きる力なのです。親世代が伝承遊びを知らないのなら絵本に頼って、大人が子どもの心でもって一緒に楽しんで下さい。「一緒に」がキーワードです。

お正月遊びに託された日本の心

当館ビブリオキッズで開催しているおはなし会も、歯科医院待合室で行うおはなし会でも大事にしているのは、日本の豊かな四季と文化を親子で感じ、楽しむ体験です。そして、絵本だけでなく、絵本の中で繰り広げられる遊びを折に触れて実際に行っています。1年の最初の月には『あけましておめでとう』(中川ひろたか作)など、おせちや年賀状、カルタ、福笑いといった日本のお正月の文化が散りばめられたお話を楽しんだ後、福笑い大会の始まりです。若いお母様やデンタルコ・メディカルスタッフに、福笑いを知っている方はいないのですが、2歳くらいから大人まで幅広く楽しめるシンプルな遊びの醍醐味を味わうと、すぐに福笑いに興じるようになります。

『あけましておめでとう』

中川ひろたか 文

村上康成 絵(童心社)



大昔から世界中で行われてきた新年の祝いですが、日本では江戸時代になって隣近所の人々が集まり、おせちを食べたり正月遊びをしたりするようになりました⁶⁾。やがて、親戚縁者一同が集まって、大人も子どもも共に興じる習わしとなったお正月伝承遊びには、「羽根突きは風に吹かれ、空に向かって遊



ぶことで諸々の邪気をはね除けて、子どもが健やかに育つようにとの願いが込められている⁷⁾、「コマまわしは長く廻り続けることによって平安と長寿を占うという人々の祈願の心意がある」⁸⁾など、遊びそれぞれに日本文化の深い意味があります。この由緒ある伝承遊びを子どもたちに伝えることこそ大人の役割、任務なのです。

歯医者さんでお正月遊びなんて、いかが？

絵本は頼もしいものです。日本文化を形にして残す創作活動を担っている絵本作家は頼れる文化継承者ともいえます。間もなく訪れる平成最後のお正月には、文化的意味をもつ伝承遊びを皆さまの小児歯科医院で開催してみませんか。

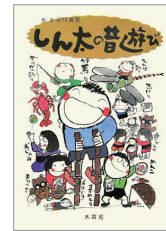
お正月イベントに向け、今から情報収集です。『おしょうがつおめでとう はじまりの日！』(文溪堂)は遊びだけでなく、食や飾りの由来まで教えてくれる図鑑の要素も備えた一冊です。戦隊ヒーローと思しきキャラクターが登場する『おしょうがつセブン』(世界文化社)なんて楽しそうなタイトルの絵本の表紙を開いた途端、セブンが飛んで来て一緒にお正月遊びを楽しみます。現代の子どもたちには近しく映るでしょう。

「農作業を守ってくれるトシ神さまは、1月1日未明に各家庭に来て一緒に新年の数日を過ごすことでその年の豊作を願う」⁹⁾との解説で終わる『ぴっぴとみいみのもちつきぺったん』(教育画劇)は、いもとようこ氏のかわいいイラストと、木村裕一氏のしかけの演出で、伝承遊びの楽しさを1歳児にも伝えられます。

同じテーマであっても、視点やものの伝え方、表現方法は異なるので、複数の絵本を併用することは、子どもたち自身がものの見方の多様性を自然と身に付けることにつながるでしょう。このような観点で見ると、日本古来の伝統的なお正月文化を伝えているのは、『おしょうがつ』(松野正子作、真島節子絵：教育画劇)で、大人にも懐かしい日本の原風景が描かれています。

心と身体の栄養たっぷりな遊びとは

めんこ、カンけり、馬乗り、ザリガニ釣り、すずめ捕り、おはじき、かごめかごめ、あんたがたどこさ。1960年代以前に生まれた方なら、どれも子ども時代に熱中して遊んだ体験をお持ちだと思います。『しん太の昔遊び』(木耳社)は、これらの遊びがまるごと詰め込まれた極上の絵本です。こんなに楽しくのめり込める自然遊びを、今の子どもたちはどれくらい知っているのでしょうか。物語の進行と同時に、遊び方の詳細が描かれているので、伝承遊びを知らない大人のガイドブックにも変身する優れた絵本です。



『しん太の昔遊び』
安川真慈 作・絵
(木耳社)



本書は書家・安川真慈氏の手によって創作されており、書画で描かれた昔風景が日本の文化を情緒たっぷりに演出しています。物語に登場する大人は、子どもを遊びの世界に連れ込むだけで、手だし口出しはしません。「昔の遊びには、体を使った遊びが多く、遊ぶことが運動となり、子どもの健康を保つことにつながっていた。みんなで行う遊びは仲間意識を育て、対人関係や集団のルールの大切さを教えた。遊びの中で子どもたちは想像力を豊かにしていた」と、奈良女子大学教授の坂本伸幸氏が、絵本の冒頭で大人に向けたメッセージを発信しています¹⁰⁾。絵本と伝承遊びを、電子メディアとの天秤に掛けてみると、子どもの健全な成長・発達の栄養素となる方へ一瞬で傾きます。

電子メディアでよどんだ目をイキイキとさせるアナログの魔法

節分、雛祭り、お花見、端午の節句、七夕、お盆、お月見、紅葉狩り、年越し。四季折々の自然遊びを通

して、子どもたちは豊かに成長していくものです。絵本作家の長野ヒデ子氏が描く行事絵本では、たいい物知りのおばあちゃんが季節の行事にまつわる様々を教えてくれる「おばあちゃんの知恵袋」が素材です。

浴衣にうちわ、流しそうめんなど昔ながらの夏の風物詩がたくさん登場する『たなばたさま きららきらら』(教育画劇)は、現代人が忘れかけていた夏の楽しみをきっと発見できるでしょう。また、あみ飾りや輪つなぎなど、七夕飾りの作り方手順が、ひとつひとつ丁寧に書かれているので、作り方を知らないお父様お母様にも心強く、楽しい絵本です。

子どもたちは手指を使って折ったり切ったりする工作が大好きです。おはなし会で作り方ページを読むと「やりたーい!」という声が飛び交います。もちろん文化的行事を大事にしていますので、七夕おはなし会の最後は工作で、親子でミニ笹飾りの製作です。院内おはなし会終了後に定期歯科検診を予約されていた4歳男児親子は、工作に夢中になり過ぎて完成しないうち、検診時間がやってきました。4歳になって1人で診療台に上がれるようになった男児を、「戻ってくるまで待っているよ」と送り出したのですが、残ったお母様が「懐かしいあみちょうちんを作ってみてもいいですか?」と楽しんで作り、診療から戻ってきたお子様に「ほら、作ったよ」と得意そうに見せていました。俄然、男児にもスイッチが入ります。

遊んでいるときやものづくりをしているときなど、ものごとに取り組んでいる子どもたちは、本当にイキイキしたとても良い表情をしています。そして、そんなわが子の表情を見たお母様も、自らの幼い時を思い起こしたお母様の表情も、いずれも素敵なのです。



広がれ伝承遊び、つながれ地域と

文化や文明が発展し、生活様式が変わったことで、子どもの遊びの世界は狭くなったと感じます。また、人と人のつながりが密接だった地域社会がなくなり、昔のような伝統が失われているようです。しか

し、子どもが備えているもの、子どもらしさはいつの時代も変わらず好奇心旺盛で、発見しては驚き興奮して、自然の中に連れ込むと想像力や知恵を使って、思いっきり楽しむことができるのです。どんな時代でも子どもたちは、自然で遊ぶことが最も楽しいことだと感じる力を潜めているのです。その力を自ら引き出せるよう大人が示し、生きる力の蓄積を支えてあげましょう。

自発的に主体的に取り組むことによって創造性は育つのですが、もうひとつ大事な要件は子ども同士で切磋琢磨すること、または保護者と楽しみを共有することで、それらが子ども自身の意志や意欲を発揮させると言われています¹¹⁾。遊びを通じて子ども自ら人と触れ合い、想像性を駆使してコツや技を身に付けて、身体的発達だけでなく、精神力を備えていくのです。

地域の宝である子どもたちの口から始まる健康管理を担う小児歯科医院が、子どもの発達支援に向けた遊び場所、心を鍛える場所となって、柔軟な活動を展開する時代がきていると提案致します。



文献

- 1) かこさとし: 未来のだるまちゃんへ, 文芸春秋, 東京, 2014, pp.184-189.
- 2) 加古里子: だるまちゃんとうさぎちゃん, 福音館書店, 東京, 1967.
- 3) 中地万里子: 伝承遊び (In 平山宗宏, 他: 現代子ども大百科), 中央法規出版, 東京, 1988, p.568.
- 4) 内海裕美: 電子映像メディアが子どもに及ぼす現状 (子どもとメディア I), 学校保健, No.318, 2016.
- 5) 加古里子: 加古里子 絵本への道, 福音館書店, 東京, 1999, pp.206-227.
- 6) 21世紀子ども百科 もののはじまり館, 小学館, 東京, 2008, pp.84-85.
- 7) 中越正堯: 江戸時代 子どもの遊び大事典, 東京堂出版, 東京, 2014, pp.172-173.
- 8) 増田靖弘: 遊びの大事典, 東京書籍, 東京, 1989, pp.500-508.
- 9) 木村裕一 作, いもとようこ 絵: ぴっぴとみいみのもちつきべったん, 教育画劇, 東京, 1997.
- 10) 安川真慈: しん太の昔遊び, 木耳社, 東京, 2006, p.3.
- 11) 前掲8): 遊びの大事典, pp.937-939.